

会議前に得ていた明治側の情報

①明治大学天文部OB会_責任者

鈴木秀彦(2001入学)さん OB会長代理

②明治大学天文部OB会_OB会長

重野さん→鈴木秀彦さん→若手OB(音信不通に)→鈴木秀彦さん

③足柄観測所の管理責任者

重野さん(足柄観測所の会 会長)

→2022年夏頃から入院されていて病状が良くないらしい。

足柄観測所の業務を行う事は出来ないとの事。

鈴木さんが引き継ぐ事になっている。

④足柄観測所の会の財源

・収入：小屋の使用料

近くのグラウンドが使えなくなってから明治現役生が全く使わなくなった(2018年～)。

*それまでは流星観測で大勢の明治現役生が来ていた。

東海大学側の使用も2018年からゼロ

・支出：土地使用料と地主さんへの謝礼(これが大半)、

観測所維持のための備品購入

→なので非常に厳しい状況になっている(赤字)

・足柄観測所の会の財布は明治大の財布とは別で、重野さんが管理している。

→これも鈴木さんが引き継ぐ予定

⑤TUD現役が支払う事になった小屋使用料5000円(2022年)

・小屋使用料300円/人

・小屋使い放題5000円/年(重野さんが昨年発案)

・重野さんとTUD現役生の間で5000円で話がまとまった経緯は不明

⑥本年度の小屋使用料

・本年度も昨年度と同じく5000円を重野さんの口座(足柄観測所の会)へ

振り込みました(6/22(木))。

⑦明治大学天文部足柄観測所(観測小屋)の歴史

・1981年：現在地に観測小屋(プレハブ)建立

・1994年：観測小屋の隣にTUD五日市観測所にあったドームと機器移設

・2003年：観測小屋老朽化(築22年)で新しい観測小屋に建て替え

・2013年：床が抜けたので修理

・2023年：(築20年)現在に至る

⑧鍵の管理

・小屋のカギは一部のOBと現役が持っている。

・鍵の所有者リストの有無は不明。

- ・OBは重野さんにカギのコピー代の実費を支払い入手していた。
- ・ドームの鍵は小屋にあるで、小屋のカギを持っていればドームも利用できる。

第一回足柄観測所会議 議事録

- ・開催日時：2023.06.24(土) 10:00-12:00
- ・形式：SkypeによるWeb会議
- ・出席者～敬称略～

明治大学天文部OB会：鈴木 会長代理(2001)、三谷(1972)、田部(1975)、是恒(1977)

東海大学天文学宇宙OB会：川井(1977惑星)、松岡(1977太陽)、佐野(1991惑星)、
野島(1993流星)、井上(2004惑星)

議事：川井、書記：松岡

1.自己紹介

- ・東海大学OB会メンバー紹介
(各メンバーの入学年度、所属、観測所との関わりなど)
- ・明治大学OB会メンバー紹介
鈴木様自己紹介(重野会長より引継ぎ対応している、会長代理、観測所との関わり)
三谷様、田部様自己紹介、是恒様(チャット参加)、

2.現状認識と情報の共有

a.作成資料を用い東海大学側から見た足柄観測所の歴史を説明(川井)

- ・1994年 五日市観測所のドーム、機器移設(OB会からドーム、機器を現役生に贈呈)
- ・1995年 共同管理で運用開始(ドーム、機器の管理はTUD現役+OB有志)
- ・2008年 ドームの床の修理、ML team-ashigara立ち上げ
- ・2014年 鏡筒21cm反射→30cm反射(明治大学天文部OB会)
- ・2018年～TUD現役+OB有志で使用実績ゼロ
- ・2019年 ML team-ashigara廃止
- ・2021年 観測所閉鎖の方向連絡あり
- ・2022年12月 費用負担等の見直し→OB会に移管、足柄観測所視察

■明治大学OB会側の説明

- ・東海大学OB会より今年度分5,000円の支払いを確認した。
昨年度の5,000円支払い決定については重野様以外は把握されていなかった。

b.足柄観測所視察時の資料(写真)を使って説明(川井)

■明治大学OB会側の説明

- ・ドームの可動部や赤道儀等は殆ど是恒様がメンテナンスを継続してくれた。
(鈴木様)
- ・赤道儀はコントローラーの断線を修理。(是恒様)
- ・ドームの整備は、グリス塗りをしていました。
また三谷さんと回転部などの滑車の調整をしました。(是恒様)
- ・オリオン30cmは三谷様より寄贈されたもの。(三谷様)
- ・赤道儀の動作に問題があるとの重野様報告に基づき確認する予定だが
実施されていない。(是恒様)

- ・草刈りは是恒様しかしていないとの認識（是恒様）

※東海側は行かなくなってから草刈り等は全く行っていないので今後は応分に対応するつもりである（川井）

c.足柄観測所の管理

- ・作成した資料で明治、東海双方の管理体制、鍵の管理を説明(川井)
1994年-2022年、2023年-2026年で比較

■明治大学OB会側の説明

- ・資料の内容を確認（資料の通り）、観測小屋を建てたときに希望者に
1本1,000円でコピーを作った。

（誰が持っているかはきちんと把握されていない）（三谷様、是恒様）

d.小屋の使用料の件（川井）

昨年現役生が重野さんとのような交渉して¥5000になったのか？

■明治大学OB会側の説明

→把握出来ていません(鈴木様、是恒様)

3.今後について（撤収）の意識合わせ

<撤収を余儀なくされる理由>

- ・観測小屋、ドーム、機器共に老朽化が進行している(出席者共通認識)
- ・最初の観測小屋は1981年から2003年迄(22年間)、今の観測小屋は2003年からなので築20年、耐用年数から考えて3年後位に撤収が妥当か。(田部様)
- ・観測小屋は電気等が引けないので観測所としての機能が不十分であること、あまり公に出来ない状況(法的に)であること、老朽化が進んでいることから使用頻度が極端に下がってきている。(田部様)
- ・解体準備金を当初用意していたが現在食いつぶしている状態なので早めに撤収した方が良いとの判断。(鈴木様)
- ・「いこいの村あしがら」とのトラブルから流星観測に使えなくなったが、鈴木様が謝罪したことでグラウンド使用の再開目処が立ったが
「いこいの村あしがら」が撤退、その後別管理（民間）となり高額使用料を提示され実質流星観測が出来なくなった結果、観測小屋使用料収入が激減したため地主様への謝礼が捻出出来なくなった。
~現在は解体準備金を切り崩し支払っている~（鈴木様）
- ・地主様にQUOカードを添えて賃貸料を支払っていた。(鈴木様)
- ・鈴木様が地主様に礼状を出したところ継続使用を認めるような回答を得たので、3年以内の撤収を要求されているとの情報の確からしさに疑問が残る。(鈴木様)
- ・「足柄観測所の会」が当初管理していたがOB会が管理している。
会計のみ「足柄観測所の会」の名称が残っている。(田部様)

①撤収迄の3年間の観測所使用予定

- ・東海大学現役は使用しない（川井）
- ・東海大学OBもほぼ使用しない（川井）
- ・明治大学天文部現役は使用しない（鈴木様）
- ・明治大学天文部OB会の使用は少なくなる（鈴木様）
- ・今後新たに観測所を作る計画は無い（鈴木様）
- ・30cm鏡筒（東海側で赤道儀が不要ならそれも含めて）は撤収時三谷様が引き取る（三谷様）

②撤収の方向性について

※本会議参加者は撤収やむなしとの意見で一致

- ・3年で撤収要求の確かさの確認が必要と考える・・・最近、地主様(前地主様の娘)と電話で話をしたが、はっきりと撤収要求を(重野さんに)していない感じであった。（鈴木様）
- ・仮に将来の観測所を作るとすれば別の場所を検討する方向と考える（田部様）
- ・大学の施設として考えてもグレーな環境なので現在の場所は難しい（鈴木様）
- ・グラウンドが使えなくなったのが痛手

→撤収の方向で検討していくのはやむを得ないという考えに至る。

※何れにしてもいつまで使用して良いのかということは地主様に確認しておく必要あり。（田部様）

- ・足柄観測所名で世界に発信するのは問題(グレーな環境)がある。（田部様）
- ・東海大学側としては現役生が使わない→今後使う人がいなくなるので撤収の方向で考えている。（川井）

③連絡網

- ・現在会議を行っているSkypeのチャットに連絡事項を記載したり、資料を貼り付けることで連絡するようになりたい。（川井）

→皆様の了承を得た。

④今後すべきこと

- ・地主様に意思を確認する。（鈴木様）
- ・撤収に関わる費用を検討する。（業者を探す、見積もりをとる）（鈴木様）

参考：主な備品・・・発電機、ラック、テーブル、ガソリンタンク

（ガソリンの処理が必要）、ソーラーパネル周辺（是恒様）

- ・撤収に伴い記念イベント等を検討したらどうか（明治OBの方々）
- ・現役生に使用意思の確認（鈴木様、現役生部の部長として）
- ・使用料負担の東海側応分については今後も支払いを続ける。（川井）

以上